

京都府京丹後市

森本大谷古墳群・森本大谷城跡
発掘調査概要

2008. 6 京丹後市教育委員会
文化財保護課

1、遺跡名称	森本大谷古墳群・森本大谷城跡
2、所在地	京丹後市大宮町森本
3、調査主体	京丹後市教育委員会
4、調査期間	現地調査期間：平成20年5月7日～平成20年6月末日
5、調査面積	約150㎡

遺跡の概要

森本大谷古墳群は、竹野川上流域西岸、大宮町森本の西側低丘陵上に立地する、総数8基からなる古墳群です。古墳は直径6～16mの円墳・方墳で、全て完存していると思われます。

また、森本大谷城跡は森本大谷古墳群南の、道路で寸断された先の丘陵尾根頂上部にある城跡で、郭や土塁、堀切が確認されています。この城は森本大谷古墳群の北側、尾根筋を登りつめたところにある森本城との関連も推測されます。

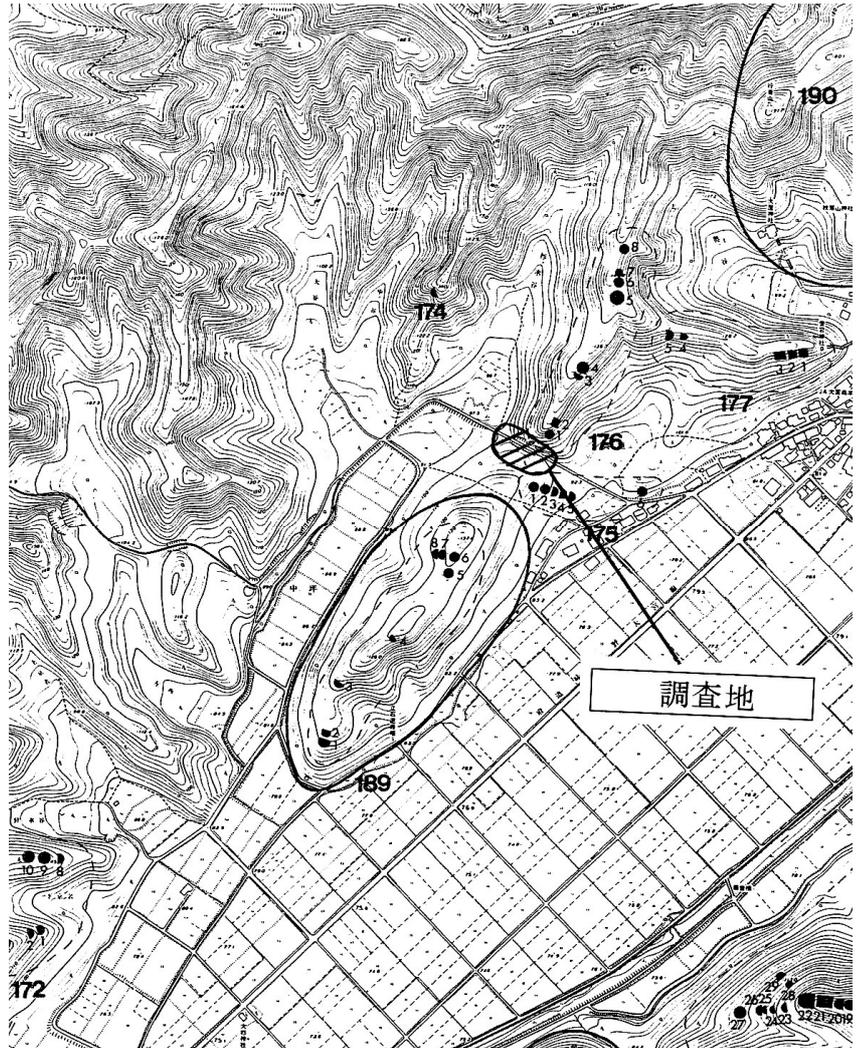
今回の調査について

京丹後市では、平成18年10月の京丹後市工業団地選定等委員会の審査を経て、大宮町森本地内の山林約14.0haに新規工業団地を造成する事業を進めており、平成21年春用地分譲を開始する予定としています。この（仮称）森本工業団地造成に係る道路建設について、既設道路を拡張するため造成が必要となった箇所に埋蔵文化財（古墳状平坦面2ヶ所＝北トレンチ、曲輪状平坦面1ヶ所＝南トレンチ）の存在が想定されたことから、今回の発掘調査を実施したものです。

以下、各トレンチごとに概要を説明していきます。

① 北トレンチ（森本大谷古墳群）

造成区域から外された森本大谷古墳群1号墳の墳丘裾部より、南西方向に尾根筋に沿って約20メートルの長さで、幅1mのトレンチを設定し調査しました。また、平面図上で平坦部の確認された3箇所について、トレンチを拡張し精査しました。



調査地周辺図

さらに尾根先西部の平坦部に向け、同じく1m幅のトレンチを約7m延長し、平坦部で拡張しました。

いずれの場所でも表土より数十センチで地山である花崗岩が露出しました。

覆土は、比較的急な斜面では表土のみであり、傾斜の緩い箇所では、10センチほどの表土の下に地山である花崗岩が起源と思われる堆積層が10～20センチ程度堆積していました。

精査の結果、遺構と思われるものは確認されず、森本大谷古墳群は1号墳より裾側には広がらないことが確認されました。しかし、調査地内の表土直下より土器が1点出土しており、1号墳との関連が想像されます。

② 南トレンチ（森本大谷城跡）

両側を道路で寸断されているこの調査地は、頂上部でほぼ平坦な地形をしています。この丘陵から南東に伸びる尾根を遮るように、高さ数十センチの高まりが8m程度の長さで確認されたため、土塁が存在する可能性が考えられました。

調査は、平坦部を丘陵尾根方向に沿って平行及び垂直となるように、幅1mのL字型のトレンチを2つ設定し実施いたしました。その後、トレンチを徐々に拡大し、最終的に平坦部は全て地山まで掘り下げました。

また、土塁の存在の可能性を確認するため、土塁を分断する方向にトレンチを延長し、調査しました。

平坦部ではいずれも10センチから20センチ程度の掘削で地山（花崗岩）に達し、遺構は確認されませんでした。覆土は平坦部東より西にかけて厚くなる傾向が見られ、西側の表土下の土層中から数点の土器が出土しました。土器には中世のものと思われるものがあり、この土層はその時期以降の堆積と考えられます。

平坦部中央西側は非常に覆土が少ないことから、中央部西側が削平され、東側へ盛り土されたことが推測されますが、その時期は中世以降と考えられます。

また、平坦部では数多くの筋状の痕跡が見られますが、これは遺構ではなく、地山花崗岩の弱線に沿って樹木の根等が成長し出来た痕跡と考えられます。

土塁についてはその土層から明確に存在することは確認されませんでした。が、中央部と同じように削平を受けている可能性もあり、断定できません。

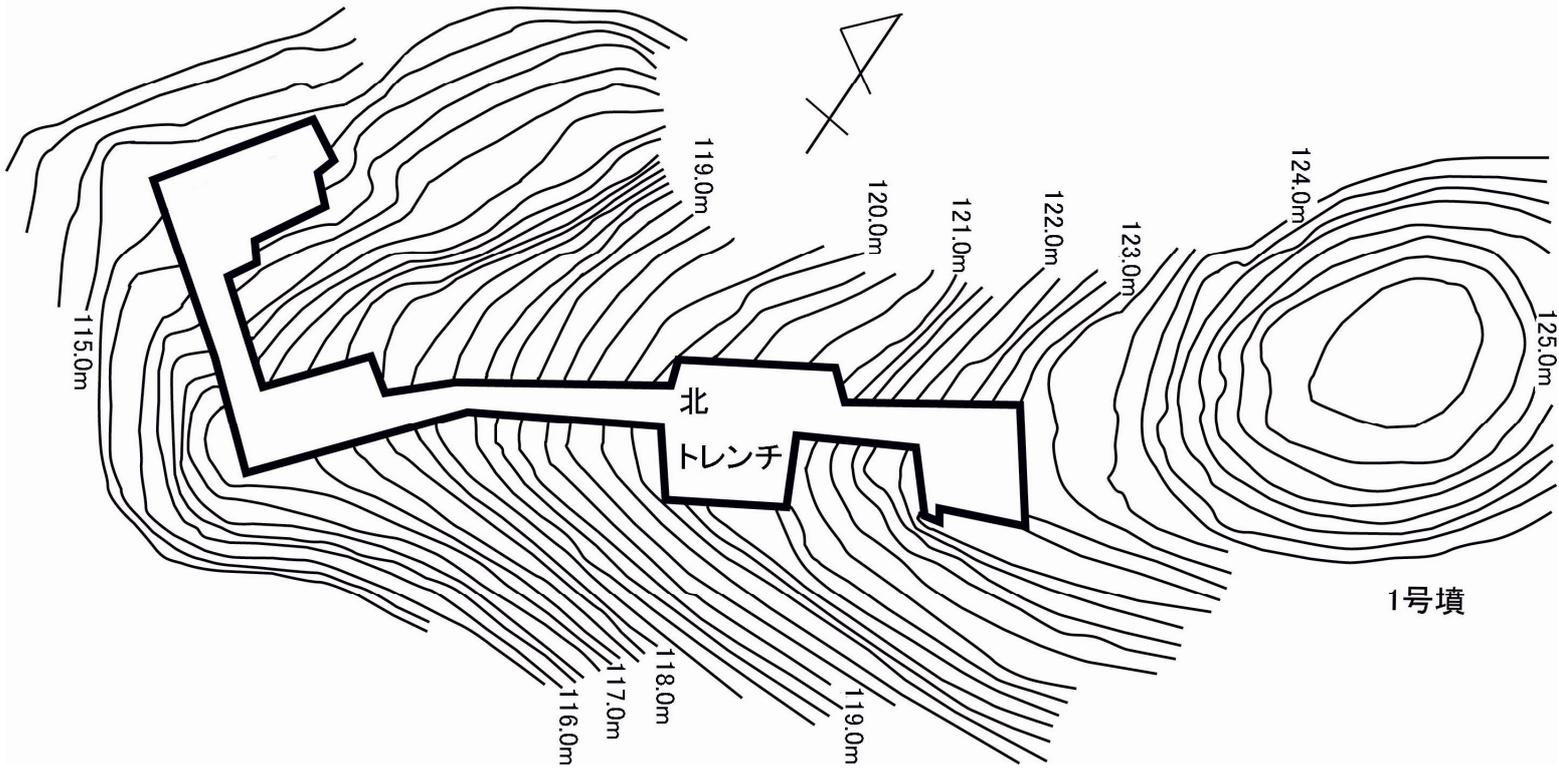
まとめ

今回の調査成果は、次のとおりになります。

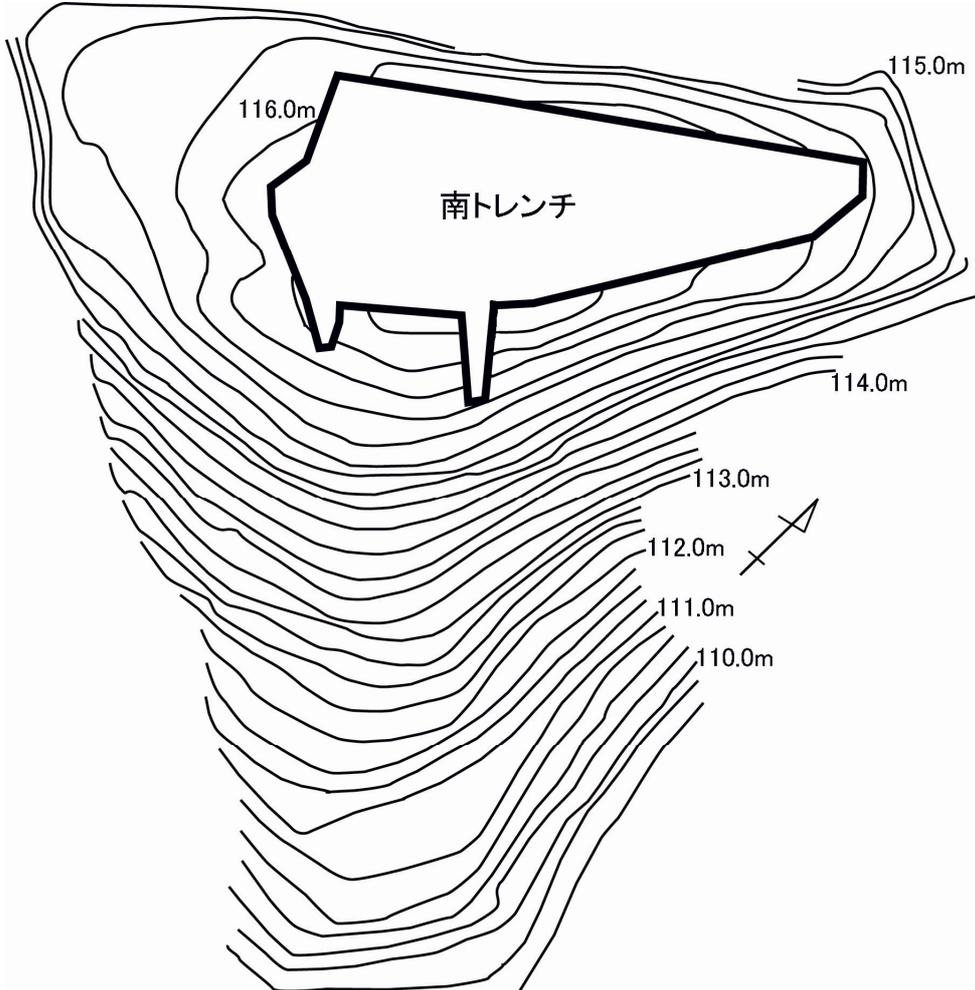
- ① 森本大谷古墳群は、1号墳より南には広がらないことが確認された。
- ② 森本大谷城跡は今回調査地まで広がっていたことを否定することは出来ないが、地形が削平を受けている可能性があり、遺構等は確認されない。
- ③ いずれも遺構及び遺構に伴う遺物は確認されなかった。



発掘調査風景



調査地北区（森本大谷古墳群）トレンチ配置図 (S=1/200)



調査地南区（森本大谷城跡）
トレンチ配置図 (S=1/200)